

調査データのトレーサビリティの確認結果
(その他の調査データの変更箇所と
元となるデータ一式)

令和4年11月25日
日本原子力発電株式会社

余白

本資料は、審査資料作成に係る業務プロセスを再構築し、調査データのトレーサビリティの確保のための確認を実施した結果、従前提示していたデータから修正が必要となった箇所についてとりまとめたものである。各データの元となるデータ(エビデンス)は、一覧表の「エビデンス資料」欄※に記載の資料に示し、本資料に添付している。

なお、データの修正が必要な箇所については、不適合管理等を実施している。

※「エビデンス資料」欄に「ボーリング柱状図・コア写真」と記載の箇所については、今回提出の資料3-4, 3-5, 3-8の該当深度の箇所が元となるデータである。

トレーサビリティの確保に伴う修正箇所一覧表

No.	対象破砕部			誤った記載の資料		修正の内容		エビデンス資料	修正理由
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表 (第833回審査 会合資料及び 令和3年7月16 日提出資料)	薄片観察資料 (第833回審査 会合資料及び 令和3年7月16 日提出資料)	修正前	修正後		
1	H24-A-11	10.20	12.76		●	全景写真の記載 花崗斑岩	全景写真の記載 カタクレーサイト	薄片観察結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
2	H24-E-2	13.23	15.82	●	●	最新活動面 13.42m	最新活動面 13.46m	最新活動面確認結果	最新活動面の記載に誤りがあり、これに基づく走向・傾斜、条線も誤っていた。 当該部の薄片試料については、作製時点で正しい位置(最新活動面13.46m)であったが、試料の切断方向が誤っていた(誤:断層面と直交する方向から60°斜交→正:断層面と直交方向)ことから、薄片試料を再作製し、薄片観察を行った(作業時に正しい情報が反映されていなかった。)。再作製した薄片観察による変位センス(右ずれを伴う逆断層)、断層岩区分の評価(断層ガウジ)に変更はなし。
				●	●	走向・傾斜 N21W60W	走向・傾斜 N33W60SW	走向・傾斜確認結果	
				●	●	条線 60R	条線 53R	条線観察結果	
					●	薄片試料を再作製して観察		薄片観察結果	
3	H24-E-1	8.41	9.70	●		破砕部範囲を示す矢印の位置の修正		破砕幅計測結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
4	H24-H-6-1	9.58	14.36	●	●	走向・傾斜 N33W38W	走向・傾斜 NS64W	走向・傾斜確認結果	走向・傾斜の判読作業時に誤りが生じ、これに基づく条線も誤っていた。 なお、薄片試料は正しく作製されており、薄片観察結果にも影響はない。
				●	●	条線 90	条線 61R	条線観察結果	
5	H24-H-14	4.93	7.81	●		断層ガウジの幅 1.0cm	断層ガウジの幅 3.5cm	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	断層ガウジの幅の記載に誤りがあり、これに基づく断層ガウジを示すカラーバーの範囲も誤っていた。
				●		断層ガウジを示すカラーバーの修正		断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	
6	H24-B'-1	7.50	10.93		●	薄片観察資料のブロック サンプル写真のY方向	X方向が正しい旨の注釈 の追加	薄片観察結果	XとYを書き間違えた。
7	H24-D1-1	49.20	49.91	●	●	最新活動面の深度 49.84m	最新活動面の深度 49.82m	最新活動面確認結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。 なお、走向・傾斜、条線の取得及び薄片試料の作製は正しい位置で行われている。
					●	最新活動面位置 ガウジの右	最新活動面位置 ガウジの左	最新活動面確認結果	
					●	全景写真の記載 花崗斑岩	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
8	H24-D1-1	53.77	54.54	●	●	最新活動面の深度 53.77m	最新活動面の深度 53.80m	最新活動面確認結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。 なお、条線の取得及び薄片試料の作製は正しい位置で行われている。
				●	●	走向・傾斜 N20E77E	走向・傾斜 N22E75E	走向・傾斜確認結果	
				●		断層ガウジの幅 1.5cm	断層ガウジの幅 1.0cm	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
					●	研磨片へのX、Z方向の記載誤り		薄片観察結果	作業時に正しい情報が反映されていなかった。 なお、X方向、Z方向ともに記載を誤っているため、結果的に薄片観察結果(変位センス等)に影響はない。
9	H24-D1-1	58.96	59.30	●		明瞭なせん断構造・ 変形構造 無	明瞭なせん断構造・ 変形構造 有	明瞭なせん断構造・変形構造 の確認結果	今回の再確認に基づき、正しいものとした。
10	H24-D1-1	60.12	60.15		●	最新活動面の矢印の位置と 薄片作製位置を示す赤枠の修正		薄片観察結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。

トレーサビリティの確保に伴う修正箇所一覧表

No.	対象破砕部			誤った記載の資料		修正の内容		エビデンス資料	修正理由
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表 (第833回審査 会合資料及び 令和3年7月16 日提出資料)	薄片観察資料 (第833回審査 会合資料及び 令和3年7月16 日提出資料)	修正前	修正後		
11	H24-D1-1	68.84	69.00	●	●	全景写真の記載 花崗岩	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
12	H24-D1-1	89.91	89.95	●	●	走向・傾斜 N22W80E	走向・傾斜 N23W86E	走向・傾斜確認結果	走向・傾斜の判読作業時に誤りが生じ、これに基づく条線も誤っていた。 なお、薄片試料の作製は正しい位置で行われており、観察結果に影響はない。
				●	●	条線 35L	条線 33L	条線観察結果	
				●		断層ガウジを示すカラーバー及び 断層角礫を示すカラーバーの修正		断層ガウジ・断層角礫の幅計 測結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
13	H24-D1-1	90.26	90.84	●		断層ガウジの幅 0.5cm	断層ガウジの幅 0.2cm	断層ガウジ・断層角礫の幅計 測結果	作業時に正しい情報が反映されていなかった
14	H24-D1-1	91.26	91.52		●	薄片試料を再作製して観察		薄片観察結果	当該部の薄片試料については、作製時点で正しい位置であったが、試料の切断方向が誤っていた(誤:断層面と直交する方向から45°斜交→正:断層面と直交方向)ことから、薄片試料を再作製し、薄片観察を行った(作業時に正しい情報が反映されていなかった。)。再作製した薄片観察による変位センス(正断層)、断層岩区分の評価(カタクレーサイト)に変更はなし。
15	H24-D1-1	93.12	93.24		●	研磨片へのX、Z方向の記載誤り		薄片観察結果	作業時に正しい情報が反映されていなかった。 なお、X方向、Z方向ともに記載を誤っているため、結果的に薄片観察結果(変位センス等)に影響はない。
					●	全景写真の記載 アプライト	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	
16	H24-D1-1	99.68	99.71	●		断層ガウジの幅 0.8cm	断層ガウジの幅 1.2cm	断層ガウジ・断層角礫の幅計 測結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
				●		最新活動面の矢印の位置を修正する		最新活動面確認結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
					●	全景写真の記載 アプライト	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
17	H27-B-1	42.41	42.49	●	●	最新活動面の深度 42.43m	最新活動面の深度 42.41m	最新活動面確認結果	CT画像により決定した最新活動面の位置が反映されていなかった。これに伴い、条線も誤った位置で読み取りが行われていた。走向・傾斜は正しい位置で判読されていた(今回表記ルールは変更)。 正しい最新活動面での薄片試料を再作製し、薄片観察を行った。旧試料のときから条線が修正となっているので、変位センスは右ずれ卓越(旧試料では右ずれを伴う正断層)となり、断層岩区分の評価に変更はなかった(断層ガウジ)。
				●	●	条線 45L	条線 14R	条線観察結果	
				●	●	走向・傾斜 N65W36NE	走向・傾斜 N65W36N	走向・傾斜確認結果	
				●	●	右ずれ正断層センス	右ずれセンス	薄片観察結果	
18	H27-B-1	44.24	44.53		●	全景写真の記載 花崗斑岩	全景写真の記載 カタクレーサイト	薄片観察結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
19	H27-B-1	46.12	46.17	●		最新活動面の矢印の位置 (46.17m)	最新活動面の矢印の位置 (46.16m)	最新活動面確認結果	今回の再確認に基づき、正しいものとした。
20	H27-B-1	49.17	49.22		●	最新活動面の深度 49.20m	最新活動面の深度 49.17m	最新活動面確認結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。

トレーサビリティの確保に伴う修正箇所一覧表

No.	対象破砕部			誤った記載の資料		修正の内容		エビデンス資料	修正理由
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表 (第833回審査 会合資料及び 令和3年7月16 日提出資料)	薄片観察資料 (第833回審査 会合資料及び 令和3年7月16 日提出資料)	修正前	修正後		
21	H27-B-1	52.72	52.81	●	●	走向・傾斜 N15E82E	走向・傾斜 N27E43W	走向・傾斜確認結果	最新活動面の走向・傾斜が誤りで、これに基づき条線も誤っており、条線が低角から正しい高角になることに伴い、薄片観察による変位センスが修正となる(薄片試料の作製位置は正しかった)。
				●	●	条線 10R	条線 72R	条線観察結果	
				●	●	左ずれセンス	逆断層センス	薄片観察結果	
22	H27-B-1	53.17	53.22		●	全景写真の記載 花崗斑岩	全景写真の記載 カタクレーサイト	薄片観察結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
23	H27-B-1	59.82	59.85	●	●	走向・傾斜 N26° E80° W	走向・傾斜 N20° E75° W	走向・傾斜確認結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。 なお、条線の取得及び薄片作製は正しいデータを基に行われており、薄片観察結果にも影響はない。
24	H27-B-1	69.70	69.73		●	全景写真の記載 花崗斑岩	全景写真の記載 カタクレーサイト	薄片観察結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
25	H27-B-1	74.36	74.50	●	●	走向・傾斜 N15E85W	走向・傾斜 N41W66W	走向・傾斜確認結果	最新活動面の走向・傾斜の判読にて誤りが生じ、誤った走向・傾斜に基づく条線も誤っており、条線が高角から正しい中角になることに伴い、薄片観察による変位センスが修正となる(薄片試料の作製位置は正しかった)。
				●	●	条線 70L	条線 52R	条線観察結果	
				●	●	正断層センス	左ずれ正断層センス	薄片観察結果	
26	H27-B-1	75.57	76.00	●	●	走向・傾斜 N34E87NW	走向・傾斜 N44E72E	走向・傾斜確認結果	孔壁崩壊の影響でBHTVIによる最新活動面の走向・傾斜の判読ができない箇所、代用値を採用していたが、より確からしい代用値に修正した。これに伴い、条線と薄片観察による変位センスも修正となる(薄片試料の作製位置に問題はない)。以上に伴い、f-d1-1-11破砕帯に連続する破砕部と評価した。
				●	●	条線 90	条線 88R	条線観察結果	
				●	●	逆断層センス	正断層センス	薄片観察結果	
				●	●	破砕帯名 非モデル化	破砕帯名 f-d1-1-11	No.85に合わせて示す。	
27	H27-B-1	85.38	85.41		●	全景写真の記載 アプライト	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
28	H27-B-1	113.51	113.60	●	●	最新活動面の深度 113.56m	最新活動面の深度 113.60m	最新活動面確認結果	CT画像により決定した最新活動面の位置が反映されていなかった。走向・傾斜、条線観察、薄片作製はいずれも113.60mの正しい最新活動面の位置で実施しており、薄片観察自体に問題はなかった。 断層ガウジの幅は、今回の再確認により、正しいものとした。
				●	●	断層ガウジの幅 0.2cm	断層ガウジの幅 0.1cm	断層ガウジ・断層角礫の幅計 測結果	
29	H27-B-1	118.94	119.12	●	●	最新活動面の深度 119.10m	最新活動面の深度 119.12m	最新活動面確認結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。 なお、走向・傾斜、条線の取得及び薄片試料の作製は正しい位置で行われており、観察結果に影響はない。
					●	全景写真の記載 アプライト	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
30	H27-B-1	139.82	139.88		●	全景写真の記載 アプライト	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
31	H27-B-2	35.36	35.46		●	X, Z方向の記載誤り		薄片観察結果	作業時に正しい情報が反映されていなかった なお、X方向、Z方向ともに記載を誤っているため、結果的に薄片観察結果(変位センス等)に影響はない。
				●		最新活動面の矢印の位置を修正する		最新活動面確認結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。

トレーサビリティの確保に伴う修正箇所一覧表

No.	対象破砕部			誤った記載の資料		修正の内容		エビデンス資料	修正理由
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表 (第833回審査 会合資料及び 令和3年7月16 日提出資料)	薄片観察資料 (第833回審査 会合資料及び 令和3年7月16 日提出資料)	修正前	修正後		
32	H27-B-2	35.68	35.73	●	●	X, Z方向の記載誤り		薄片観察結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。 なお、X方向、Z方向ともに記載を誤っているため、結果的に薄片観察結果(変位セン ス等)に影響はない。
				●	●	薄片拡大写真の撮影位置を示す緑線の修正		薄片観察結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
33	H27-B-2	35.92	35.95	●	●	左ずれを伴う逆断層	右ずれを伴う正断層	薄片観察結果	薄片観察結果の資料作成時に、Z方向(断層面の法線方向、上盤側を正)を誤って記 載したことにより、変位センスを正しい方向と逆向きに記載してしまった。
34	H27-B-2	48.08	48.12	●	●	断層ガウジの幅 0.5cm	断層ガウジの幅 0.1cm	断層ガウジ・断層角礫の幅計 測結果	作業時に正しい情報が反映されていなかった (なお、当該破砕部は追加した文献を踏まえた薄片観察を実施し、断層岩区分の総 合評価を実施した結果カタクレーサイトであり、断層ガウジの幅0.1cmは性状一覧表 には記載していない。)
				●	●	X, Z方向の記載誤り		薄片観察結果	作業時に正しい情報が反映されていなかった なお、X方向、Z方向ともに記載を誤っているため、結果的に薄片観察結果(変位セン ス等)に影響はない。
35	H27-B-2	60.26	60.69	●	●	最新活動面の深度 60.58m	最新活動面の深度 60.59m	最新活動面確認結果	最新活動面の認定の誤りに気づき修正を行ったが、走向・傾斜、条線のデータ取得 に正しい情報が反映されなかった。なお、薄片試料の作製は適切な位置で行われて いた。
				●	●	走向・傾斜 N18E77W	走向・傾斜 N31E88SE	走向・傾斜確認結果	
				●	●	条線 60R	条線 75L	条線観察結果	
				●	●	右ずれ逆断層センス	正断層センス	薄片観察結果	
36	H27-B-2	85.58	85.76	●	●	走向・傾斜 N15E82W	走向・傾斜 N20E89E	走向・傾斜確認結果	最新活動面の認定は正しく行われたが、走向・傾斜の判読時に誤った位置の走向・ 傾斜を採用してしまい、条線観察、薄片作製もこの誤った位置で行われたことから、 薄片試料を再作製し、薄片観察を行った。再作製した薄片観察による変位センスは 右ずれ(旧試料では右ずれ正断層)となり、断層岩区分の評価に変更はなかった(カ タクレーサイト)。
				●	●	条線 60L	条線 15L	条線観察結果	
				●	●	右ずれ正断層センス	右ずれセンス	薄片観察結果	
37	H27-B-2	88.38	88.43	●	●	最新活動面の深度 88.43m	最新活動面の深度 88.42m	最新活動面確認結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
				●	●	薄片試料を再作製して観察		薄片観察結果	走向・傾斜、条線の取得は正しく行われていたが、薄片試料作製時に条線方向に平 行になるように作製できていなかった。再作製した薄片観察による変位センス(右ず れ正断層)、断層岩区分の評価(断層ガウジ)に変更はなし。
38	H27-B-2	88.88	88.94	●	●	最新活動面の深度 88.91m	最新活動面の深度 88.92m	最新活動面確認結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
39	H27-B-2	120.63	120.65	●	●	全景写真の記載 花崗斑岩	全景写真の記載 アブライト	ボーリング柱状図 コア写真	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
40	H27-B-2	128.82	128.97	●	●	破砕帯名 D-44	破砕帯名 f-b-2-18	No.85に合わせて示す。	H24-B14-2の49.24-49.55mの破砕部の走向・傾斜を見直した結果、本破砕部と連続 させることができる破砕部性状ではないことから、破砕帯分布を見直し、本破砕部を f-b-2-18破砕帯とした。

トレーサビリティの確保に伴う修正箇所一覧表

No.	対象破砕部			誤った記載の資料		修正の内容		エビデンス資料	修正理由
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表 (第833回審査 会合資料及び 令和3年7月16 日提出資料)	薄片観察資料 (第833回審査 会合資料及び 令和3年7月16 日提出資料)	修正前	修正後		
41	H27-B-2	133.75	133.92	●		走向・傾斜 N1E72E	走向・傾斜 N6E84E	走向・傾斜確認結果	走向・傾斜の判読作業時に誤りが生じ、これに基づく条線も誤っていた。
				●		条線 21L	条線 22L	条線観察結果	
42	H27-B-2	134.15	134.23	●	●	走向・傾斜 N16E67E	走向・傾斜 N12E66E	走向・傾斜確認結果	走向・傾斜の判読作業時に誤りが生じ、これに基づく条線も誤っていた。 なお、薄片試料の作製は正しい位置で行われており、観察結果に影響はない。
				●	●	条線 85L	条線 82L	条線観察結果	
43	H27-B-2	152.10	152.15		●	全景写真の記載 アブライト	全景写真の記載 花崗斑岩	ポーリング柱状図 コア写真	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
44	H24-B14-2	49.24	49.55	●	●	走向・傾斜 N44E80E	走向・傾斜 N21W21E	走向・傾斜確認結果	BHTVによる最新活動面の走向・傾斜の判読ができない箇所、代用値を採用していたが、より確からしい代用値に修正した。これに伴い、条線と薄片観察による変位センスも修正となる(薄片試料の作製位置に問題はない)。 走向・傾斜、変位センスの修正に伴い、H27-B-2孔の128.82-128.97mの破砕部と連続しない破砕部性状となることから、破砕帯分布を見直し、本破砕部をf-b14-2-4破砕部とした。
				●	●	条線 75L	条線 17R	条線観察結果	
				●	●	正断層センス	右ずれセンス	薄片観察結果	
				●		破砕帯名 D-44	破砕帯名 f-b14-2-4	No.85に合わせて示す。	
45	H24-B14-2	101.47	101.52		●	X: 走向方向(北向きを正とする)	X: 条線方向(下向きを正とする)	薄片観察結果	作業時に正しい情報が反映されていなかった 薄片観察は、正しい情報(X:条線方向(下向きを正とする))をもとに実施しており、観察結果に影響はない。
				●		破砕帯名 f-b14-2-6	破砕帯名 非モデル化	No.85に合わせて示す。	H24-B14-2孔の49.24-49.55mの破砕部の走向・傾斜の値を見直したことに伴い周辺の破砕帯分布を見直した結果、本破砕部は非モデル化破砕部とした。
46	H24-B14-2	109.16	109.46	●		断層ガウジの幅 2.2cm	断層ガウジの幅 1.0cm	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	作業時に正しい情報が反映されていなかった
				●	●	薄片観察資料の最新活動面の矢印の位置: 断層ガウジの中央	薄片観察資料の最新活動面の矢印の位置: 断層ガウジの右端	薄片観察結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
47	H24-D1-2	12.38	12.97	●	●	最新活動面の深度 12.85m	最新活動面の深度 12.86m	最新活動面確認結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。 なお、走向・傾斜、条線の取得及び薄片試料作製は正しい位置で行われており、観察結果に影響はない。
				●		断層ガウジの幅 0.9cm	断層ガウジの幅 0.5cm	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	作業時に正しい情報が反映されていなかった
48	H24-D1-2	19.78	19.87	●	●	最新活動面の深度 19.87m	最新活動面の深度 19.82m	最新活動面確認結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。 なお、走向・傾斜、条線の取得及び薄片試料作製は正しい位置で行われており、観察結果に影響はない。
49	H24-D1-2	31.44	31.46	●		明瞭なせん断構造・ 変形構造 無	明瞭なせん断構造・ 変形構造 有	明瞭なせん断構造・変形構造 の確認結果	今回の再確認に基づき、正しいものとした。

トレーサビリティの確保に伴う修正箇所一覧表

No.	対象破砕部			誤った記載の資料		修正の内容		エビデンス資料	修正理由
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表 (第833回審査 会合資料及び 令和3年7月16 日提出資料)	薄片観察資料 (第833回審査 会合資料及び 令和3年7月16 日提出資料)	修正前	修正後		
50	H24-D1-4	10.91	10.93	●	●	最新活動面の深度 10.91m	最新活動面の深度 10.93m	最新活動面確認結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。 なお、走向・傾斜、条線の取得及び薄片試料作製は正しい位置で行われており、観察結果に影響はない。
51	H24-D1-4	52.97	53.46		●	ブロックサンプルの最新活動面を示す 矢印の位置の修正		薄片観察結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
52	H24-D1-4	60.06	60.38		●	全景写真の記載 アブライト	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
53	H24-D1-4	61.47	61.52		●	全景写真の記載 アブライト	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
54	H24-D1-4	63.67	63.90	●	●	最新活動面の深度 63.88m	最新活動面の深度 63.90m	最新活動面確認結果	最新活動面に誤りがあり、これに基づく走向・傾斜、条線も誤っていた。 なお、条線観察時は、正しい位置である63.90mでデータ採取を行っていた。 また、薄片試料作製は正しい位置で行われており、観察結果にも影響はない。
				●	●	走向・傾斜 N19W89W	走向・傾斜 N20E88W	走向・傾斜確認結果	
				●	●	条線 90	条線 66L	条線観察結果	
					●	薄片作製位置を示す赤枠の修正		薄片観察結果	
				●	全景写真の記載 アブライト	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。	
55	H24-D1-3	14.41	14.52		●	X, Z方向の記載誤り		薄片観察結果	作業時に正しい情報が反映されていなかった なお、X方向、Z方向ともに記載を誤っているため、結果的に薄片観察結果(変位セン ス等)に影響はない。
				●		断層ガウジの幅 1.9cm	断層ガウジの幅 1.8cm	断層ガウジ・断層角礫の幅計 測結果	作業時に正しい情報が反映されていなかった
56	H24-D1-3	34.23	34.52	●		断層ガウジの幅 0.8cm	断層ガウジの幅 0.7cm	断層ガウジ・断層角礫の幅計 測結果	作業時に正しい情報が反映されていなかった
57	H24-D1-3	52.13	52.28		●	全景写真の記載 アブライト	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
					●	複合面構造の解釈線の位置の修正		薄片観察結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
58	H27-B-3	26.70	26.90	●	●	最新活動面の深度 26.70m	最新活動面の深度 26.71m	最新活動面確認結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。 なお、走向・傾斜、条線の取得及び薄片試料作製は正しい位置で行われており、観 察結果に影響はない。
				●		断層ガウジの幅 0.1cm	断層ガウジの幅 0.2cm	断層ガウジ・断層角礫の幅計 測結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。 (上記最新活動面の見直しに合わせ、当初断層ガウジであるとしていた26.70mの細 粒部(1mm)に加えて、26.71mの細粒部(1mm)も断層ガウジであると認定したが、資 料へ反映されていなかった。)
					●	全景写真の記載 アブライト	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。

トレーサビリティの確保に伴う修正箇所一覧表

No.	対象破砕部			誤った記載の資料		修正の内容		エビデンス資料	修正理由
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表 (第833回審査 会合資料及び 令和3年7月16 日提出資料)	薄片観察資料 (第833回審査 会合資料及び 令和3年7月16 日提出資料)	修正前	修正後		
59	H27-B-3	28.12	28.14	●		破砕幅 2.0cm	破砕幅 1.0cm	破砕幅計測結果	作業時に正しい情報が反映されていなかった
					●	全景写真の記載 アブライト	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
60	H27-B-3	29.10	29.12	●		明瞭なせん断構造・ 変形構造 無	明瞭なせん断構造・ 変形構造 有	明瞭なせん断構造・変形構造 の確認結果	作業時に正しい情報が反映されていなかった
61	H27-B-3	42.85	42.91		●	全景写真の記載 花崗斑岩	全景写真の記載 カタクレーサイト	薄片観察結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
62	H27-B-3	56.69	56.72		●	薄片作製位置を示す赤枠の位置の修正		薄片観察結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
					●	ブロックサンプルの最新活動面を示す 矢印の位置の修正		薄片観察結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
					●	全景写真の記載 アブライト	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
63	H27-B-3	58.89	58.98		●	全景写真の記載 アブライト	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
64	H27-B-3	76.59	76.89	●	●	走向・傾斜 データなし	走向・傾斜 N42E14W	走向・傾斜確認結果	BHTVによる最新活動面の走向・傾斜の判読ができない箇所、代用値を採用していたが、より確からしい代用値に修正した。これに伴い、条線と薄片観察による変位センスも修正となる。 薄片試料作製時にZ方向の記載を誤っていたため、記載を修正した。 これに基づき条線、変位センスを見直した結果、本破砕部を非モデル化破砕部とした。
				●	●	条線 35R	条線 7R	条線観察結果	
				●	●	左ずれ正断層センス	右ずれセンス	薄片観察結果	
				●		破砕帯名 H-3c	破砕帯名 非モデル化	No.85に合わせて示す。	
				●		Z方向の記載誤り		薄片観察結果	
					●	全景写真の記載 花崗斑岩	全景写真の記載 カタクレーサイト	薄片観察結果	
65	H27-B-3	99.50	99.68	●		条線 52R	条線 2R	条線観察結果	作業時に正しい情報が反映されていなかった
66	H27-B-3	119.11	119.25	●	●	最新活動面の深度 119.15m	最新活動面の深度 119.18m	最新活動面確認結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。 なお、走向・傾斜、条線の取得及び薄片試料作製は正しい位置で行われており、観察結果に影響はない。
					●	全景写真の記載 花崗斑岩	全景写真の記載 アブライト	ボーリング柱状図 コア写真	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
67	H27-B-3	129.84	129.91		●	全景写真の記載 アブライト	全景写真の記載 花崗斑岩	ボーリング柱状図 コア写真	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。

トレーサビリティの確保に伴う修正箇所一覧表

No.	対象破砕部			誤った記載の資料		修正の内容		エビデンス資料	修正理由
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表 (第833回審査 会合資料及び 令和3年7月16 日提出資料)	薄片観察資料 (第833回審査 会合資料及び 令和3年7月16 日提出資料)	修正前	修正後		
68	H24-B-4'	23.97	24.42	●		破砕幅 34.0cm	破砕幅 18.9cm	破砕幅計測結果	作業時に正しい情報が反映されていなかった
69	H27-B-4	29.74	29.78	●		破砕幅 3.7cm	破砕幅 2.3cm	破砕幅計測結果	作業時に正しい情報が反映されていなかった
70	H27-B-4	65.59	65.72	●		最新活動面の深度 65.72m	最新活動面の深度 65.65m	最新活動面確認結果	最新活動面の記載に誤りがあり、これに基づく走向・傾斜も誤っていた。なお、本破砕部は、薄片観察は実施していない。
				●		走向・傾斜 NS78W	走向・傾斜 N1W80W	走向・傾斜確認結果	
71	H27-B-4	93.13	93.22	●	●	走向・傾斜 N10E78W	走向・傾斜 N17E75W	走向・傾斜確認結果	走向・傾斜の判読作業時に誤りが生じ、これに基づく条線も誤っていた。なお、薄片作製は正しい位置で行われており、薄片観察結果にも影響はない。
				●	●	条線 40R	条線 42R	条線観察結果	
72	H24-D1-5	47.47	47.89	●		断層ガウジの幅 2.0cm	断層ガウジの幅 0.6cm	断層ガウジ・断層角礫の幅計測結果	作業時に正しい情報が反映されていなかった
73	Lカットピット				●	R1, P面の位置の誤りを修正する		薄片観察結果※	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
					●	ブロックサンプルの最新活動面を示す矢印の位置の修正		薄片観察結果	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
				第833回審査会合資料 (本編資料)		旧版のスケッチであったため、対象の露頭、露頭の観察面の写真及びスケッチ原図を確認して最新版のスケッチにした。		スケッチ※ 露頭写真	スケッチの識別管理が不十分で、旧版のスケッチを資料作成に用いていた。
74	D-1トレンチ平面図			第833回審査会合資料		2-1ピット底盤を掘り込み後の形状に修正		—※	最新のトレンチの形状が反映されていなかったため。
				令和3年7月16日提出資料		地質平面図 H24-H-2孔の線の方向と長さを修正		—※	作業時に正しい情報が反映されていなかった
				第833回審査会合資料		K断層確認ボーリング孔の位置図 ボーリング孔の位置を修正		—※	作業時に正しい情報が反映されていなかった
75	D-1トレンチ断面図(C-C')			第536回審査会合資料 (机上配布資料1)		2-1ピット底盤を掘り込み後の形状に修正		—※	最新のトレンチの形状が反映されていなかったため。
76	D-1トレンチ断面図(I-I')			第536回審査会合資料 (机上配布資料1)		H-12孔より南側の地表面 が平坦	H-12孔より南側の地表面 をピットの法面の形状に修正	—※	最新のトレンチの形状が反映されていなかったため。
				第536回審査会合資料 (机上配布資料1)		K断層による地層の変位量の修正		スケッチ※ 露頭写真	作業時に正しい情報が反映されていなかった
				第536回審査会合資料 (机上配布資料1)		H-12孔,H-13孔, H-16孔の ボーリングの黒線の長さを修正		—※	作業時に正しい情報が反映されていなかった
77	D-1トレンチ北西法面			第833回審査会合資料 (本編資料)		旧版のスケッチであったため、対象の露頭、露頭の観察面の写真及びスケッチ原図を確認して最新版のスケッチにした。		スケッチ※ 露頭写真	スケッチの識別管理が不十分で、旧版のスケッチを資料作成に用いていた。
				第833回審査会合資料 (本編資料)		②層の色調 明青灰色(10B7/1)	②層の色調 明青灰色(10BG7/1)	スケッチ※ 露頭写真	作業時に正しい情報が反映されていなかった
78	K断層南方f-f断面図			令和3年7月16日提出資料		H-6c破砕帯分布の修正		—※	作業時に正しい情報が反映されていなかった

トレーサビリティの確保に伴う修正箇所一覧表

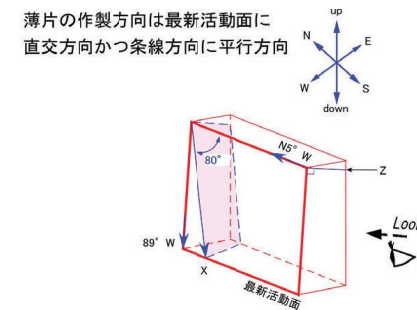
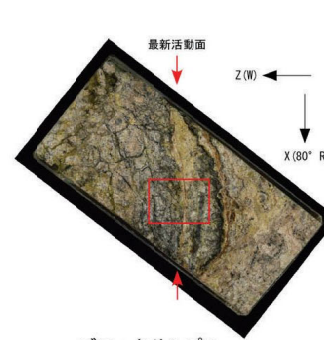
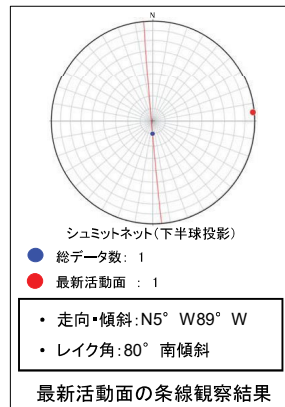
No.	対象破砕部			誤った記載の資料		修正の内容		エビデンス資料	修正理由
	確認箇所	上端深度	下端深度	性状一覧表 (第833回審査 会合資料及び 令和3年7月16 日提出資料)	薄片観察資料 (第833回審査 会合資料及び 令和3年7月16 日提出資料)	修正前	修正後		
79	D-1トレンチ1-1ピット北面			第833回審査会合資料 (本編資料)		①層の色調 浅黄橙色(7.5YR7/3)	①層の色調 浅黄橙色(7.5YR8/3)	スケッチ※ 露頭写真	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
80	D-1トレンチ2-1ピット			第833回審査会合資料 (本編資料)		②層の色調 明褐色～明褐灰色 (7.5YR7/1～7.5YR8/6)	②層の色調 明褐灰色～浅黄橙色 (7.5YR7/1～7.5YR8/6)	スケッチ※ 露頭写真	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
				第833回審査会合資料 (本編資料)		③層の色調 橙～浅黄橙色, 灰白色 (5YR7/8～7.5YR8/2)	③層の色調 橙～浅黄橙色, 灰白色 (5YR7/8～7.5YR8/6, 7.5YR8/2)	スケッチ※ 露頭写真	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
81	D-1トレンチ 擁壁撤去法面			第833回審査会合資料 (本編資料)		③層A層の色調 浅橙色(5YR8/3)	③層A層の色調 淡橙色(5YR8/3)	スケッチ※ 露頭写真	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
82	原電道路ピット/ふげん道路ピット			第833回審査会合資料 (本編資料)		⑧層の色調 橙色(5Y6/6)	⑧層の色調 橙色(5YR6/6)	スケッチ※ 露頭写真	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
83	ふげん道路ピット東法面中段			第833回審査会合資料 (本編資料)		②層の色調 灰白色(2.5Y7/12)	②層の色調 灰白色(2.5Y7/1)	スケッチ※ 露頭写真	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
				第833回審査会合資料 (本編資料)		③層の色調 黄灰色(25Y6/11)	③層の色調 黄灰色(2.5Y6/1)	スケッチ※ 露頭写真	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
84	ふげん道路ピット東法面下段			第833回審査会合資料 (本編資料)		②層の色調 灰白色(2.5Y7/12)	②層の色調 灰白色(2.5Y7/1)	スケッチ※ 露頭写真	資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった。
85	平面図・断面図			第833回審査会合資料 (本編資料) 令和3年7月16日提出資料		各データ修正内容の反映 (K断層の性状, K断層南方調査位置図, K断層南方 調査結果平面図, K断層南方調査結果断面図)		—※	トレーサビリティ確保に伴う各調査データの修正内容を反映した。

※:修正前後の比較を示し, 修正箇所に枠を付けている。

・H24-A-11のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度11.81m)の変位センスは、逆断層成分※が卓越する。
 ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。

- (断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- (カタクレーサイト)角ばった岩片が多い。
- (カタクレーサイト)ジグソー状の角礫群が認められる。

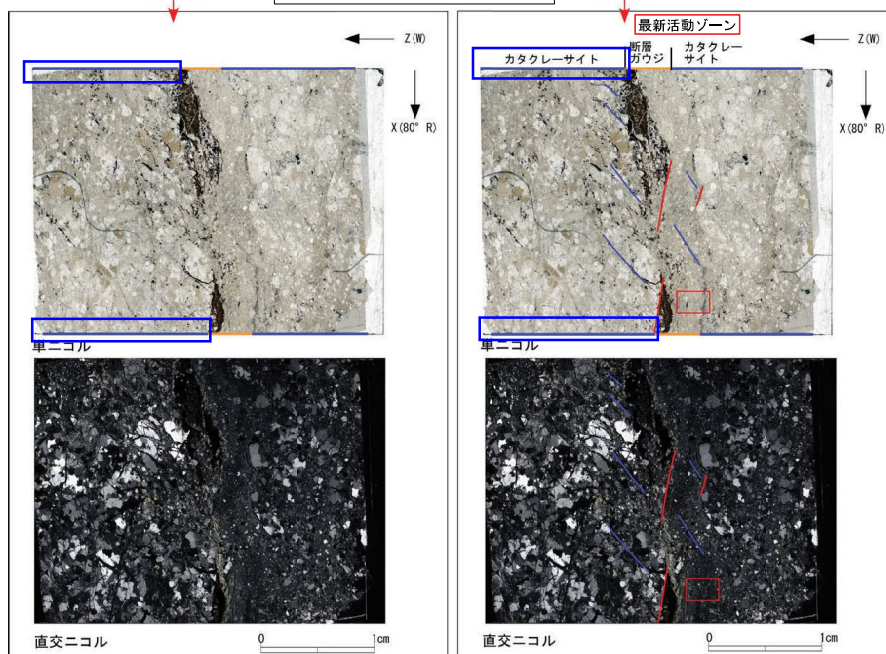
※ 横ずれ成分と縦ずれ成分の両者が見られる場合、「右(又は左)ずれを伴う正断層(又は逆断層)」と記載している。(以下、同様)



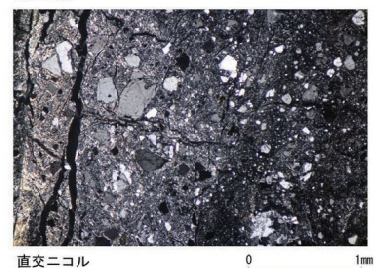
走向・傾斜 N5° W89° W

X：条線方向(下向きを正とする)

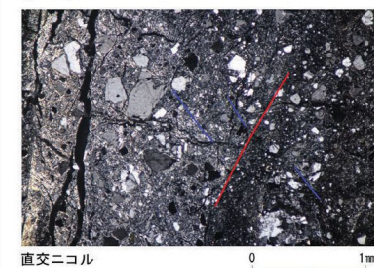
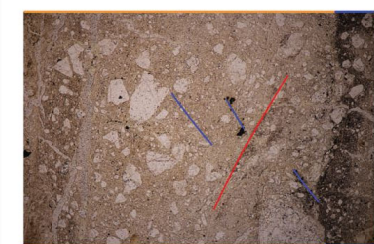
Z：断層面の法線方向(上盤側を正とする)



赤枠内の拡大



赤枠内の拡大

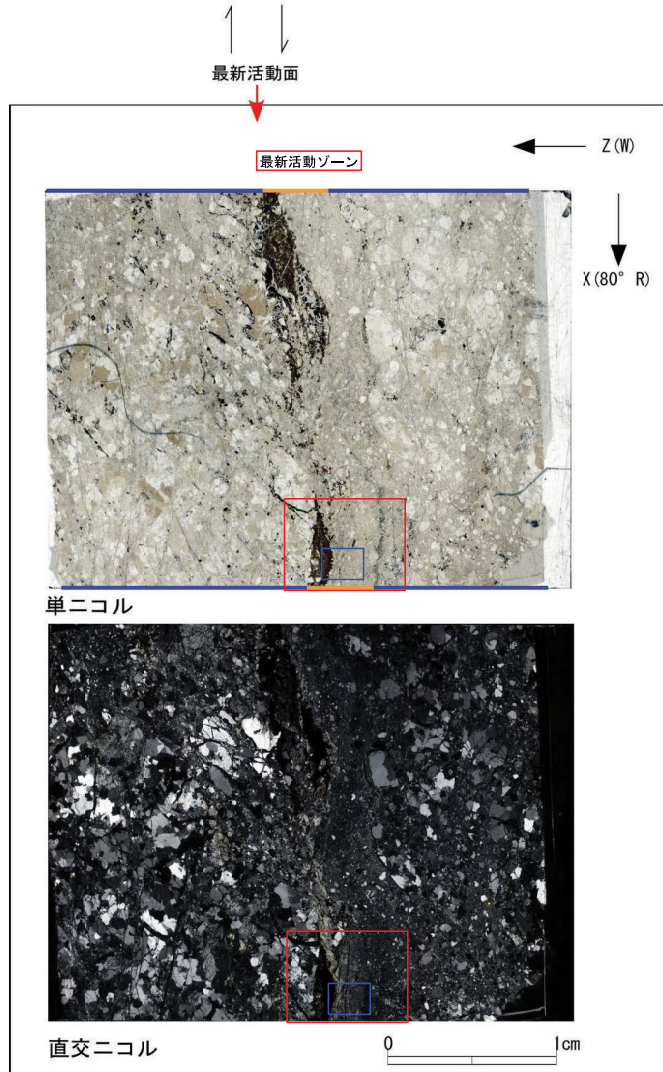


- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

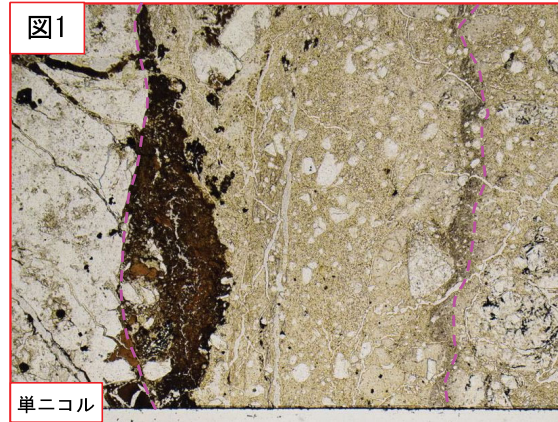
H24-A-11 深度10.20~12.76m K断層(2/3)

1のエビデンス (薄片観察結果) (2/3)

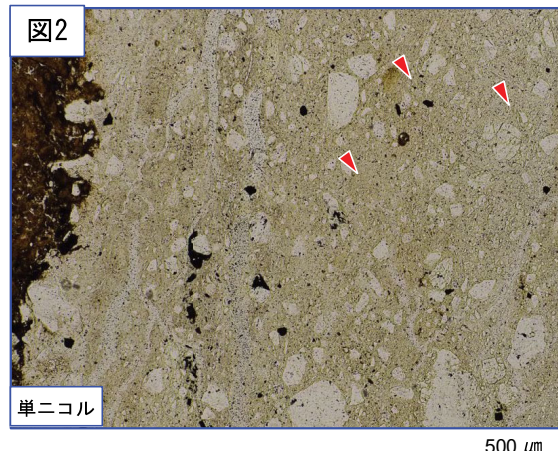
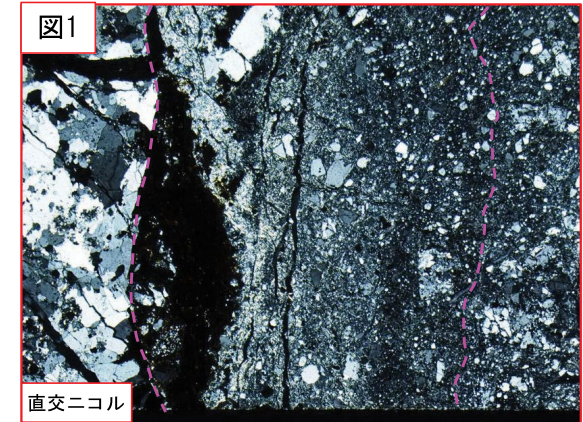
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)



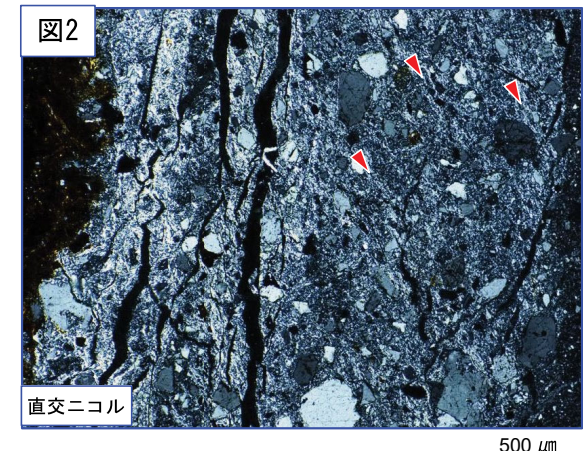
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト



破線は帯状で直線的な範囲を示す。 1 mm



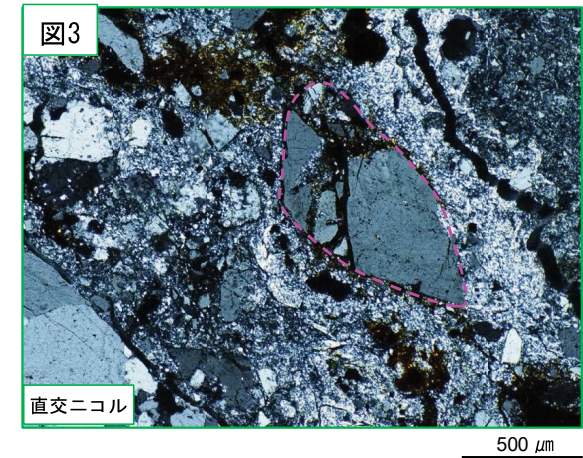
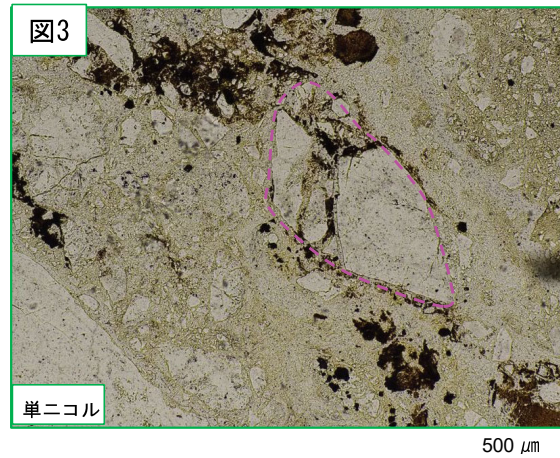
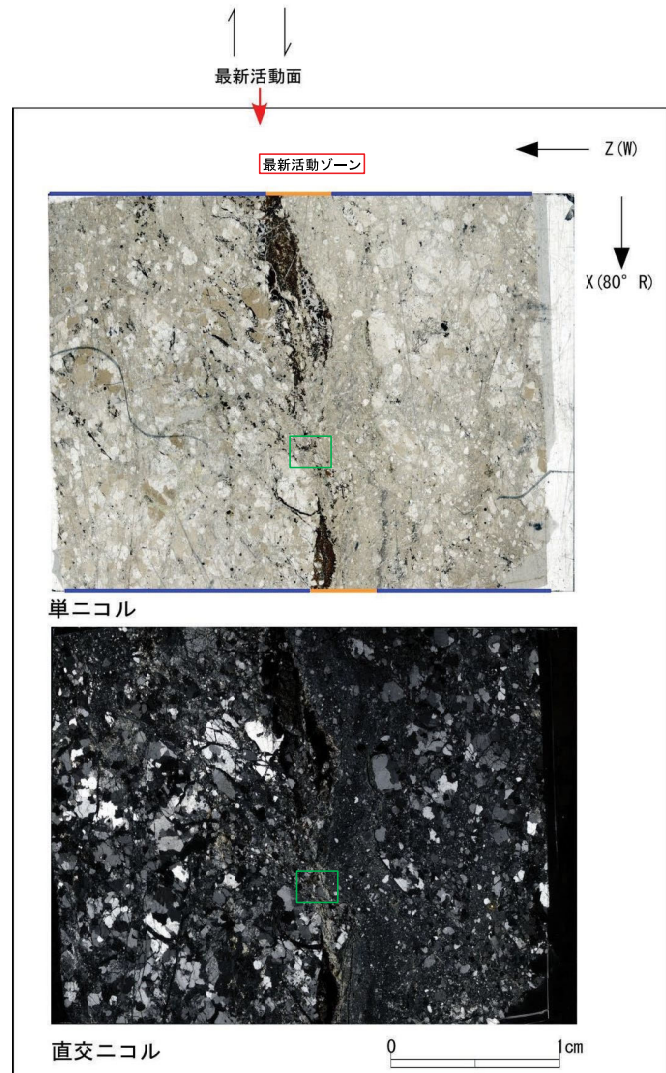
赤矢印の方向は粘土鉱物の配列方向を示す。



H24-A-11 深度10.20~12.76m K断層(3/3)

1のエビデンス (薄片観察結果) (3/3)

・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 > ジグソー状の角礫群が認められる。(図3)



破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。

凡例
 — 断層ガウジ
 — カタクレーサイト

・細粒部を伴い最も直線的であることから、深度13.46mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真



凡例
← → 破碎部範囲※
※:写真上は白色で記載
↘ 最新活動面



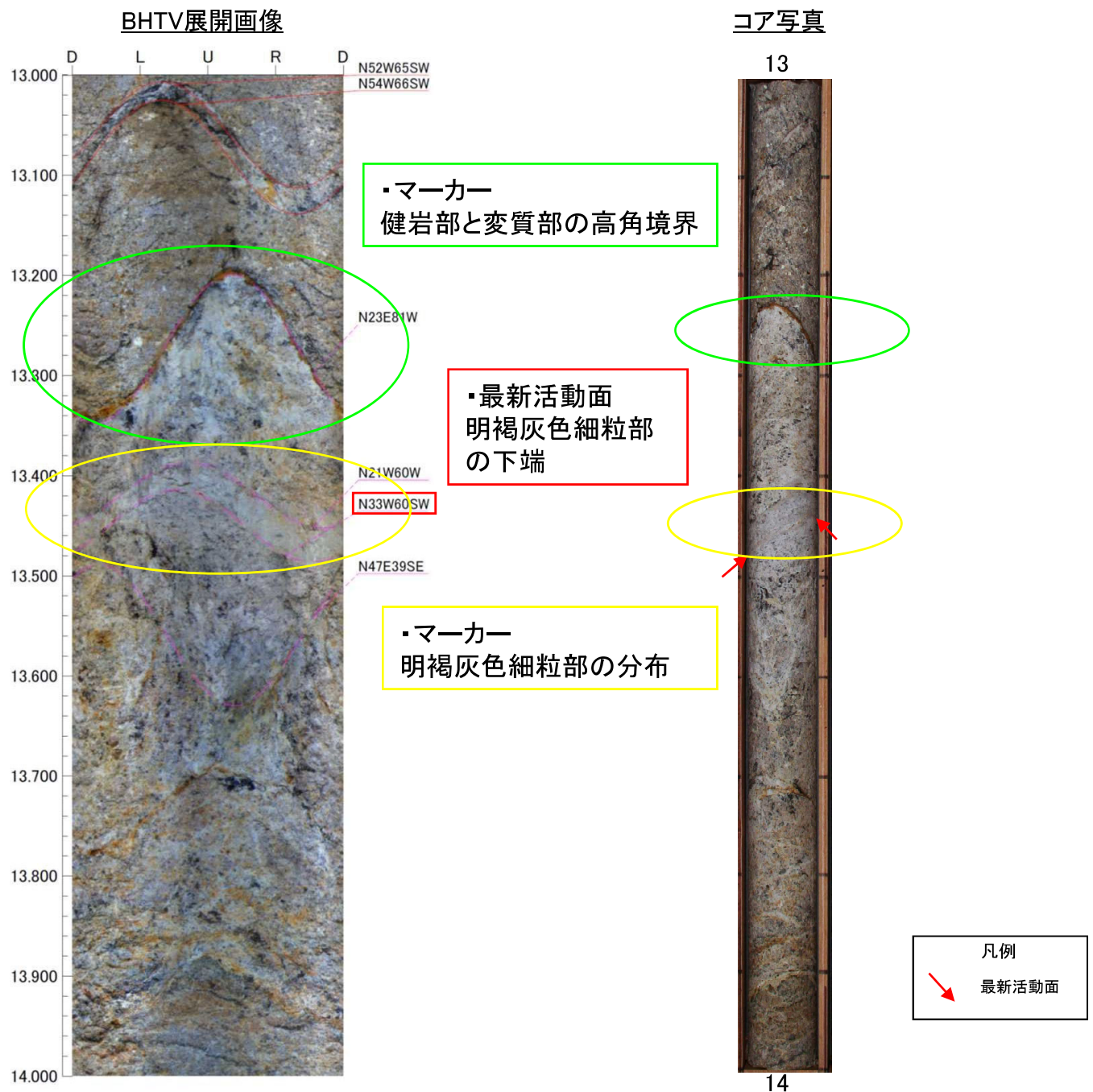
凡例
↘ 最新活動面

青枠部拡大

0 5 cm

ボアホールカメラ展開画像との対比結果 (H24-E-2 深度13.23~15.82m) 2のエビデンス (走向・傾斜)

・ H24-E-2 深度13.23~15.82mの破碎部の最新活動面の走向・傾斜はN33° W60° SWである。

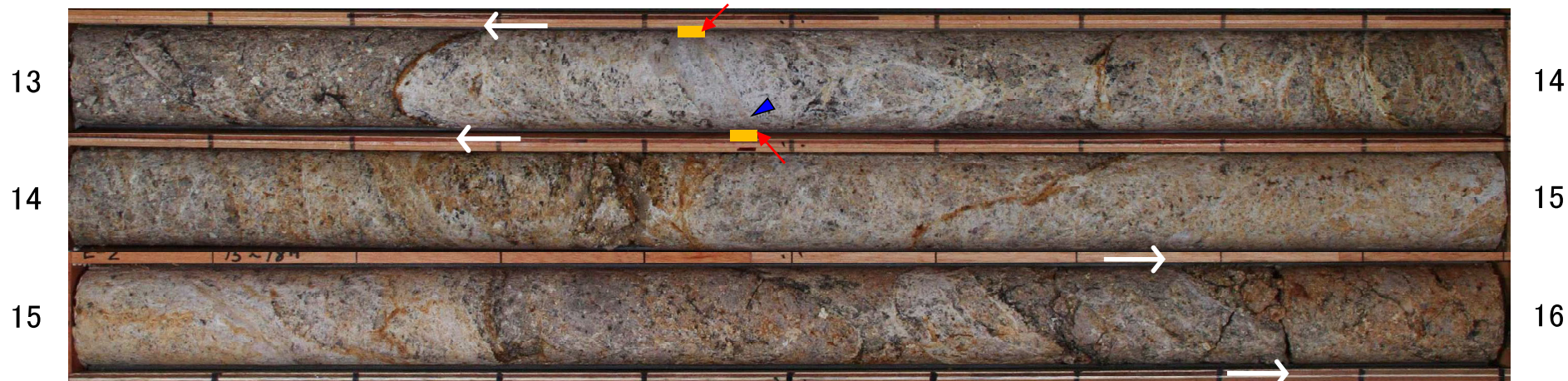


条線観察結果(K断層 H24-E-2孔 深度13.46m)

2のエビデンス (条線)

H24-E-2孔 深度13.46mのK断層の断層面の走向・傾斜はN33° W60° SWであり、53Rの条線が認められる。

コア写真



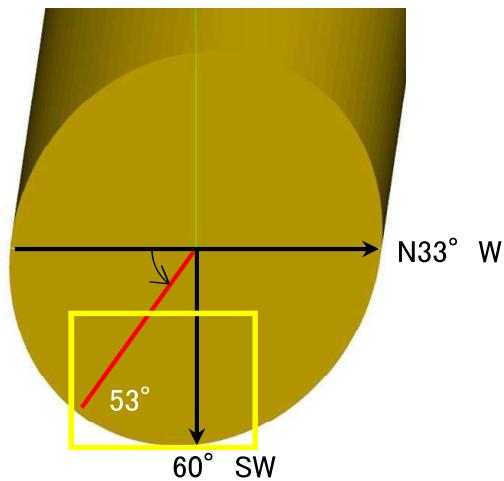
凡例

- 条線観察位置 (Blue arrow)
- 断層ガウジ (Yellow bar)
- 破碎部範囲* (White arrows)
- 最新活動面 (Red arrow)

※: 写真上は白色で記載

観察模式図

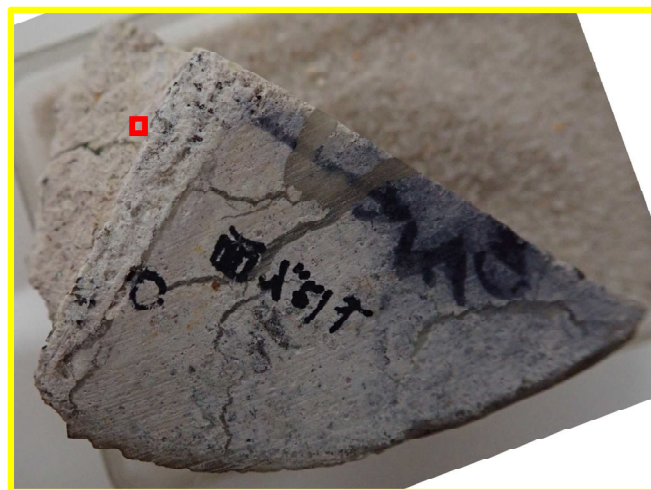
※下盤側から観察



凡例

- 最新活動面 (Yellow circle)
- レイク (Red arrow)

条線観察位置拡大



1 cm

赤枠内拡大



100 μm

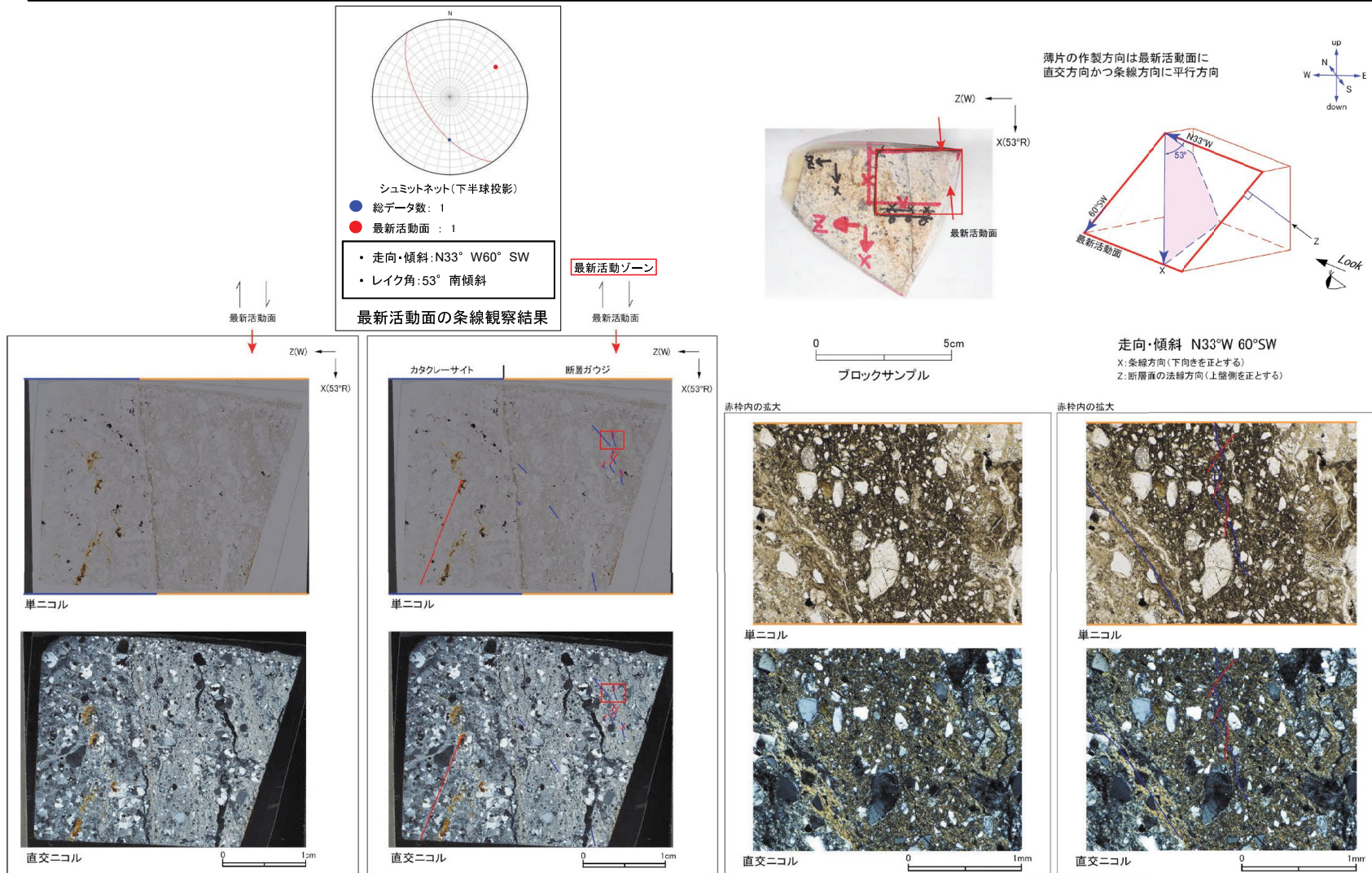
凡例

- 条線方向 (Green arrows)

H24-E-2 深度13.23~15.82m K断層(1/3)

2のエビデンス (薄片観察結果) (1/3)

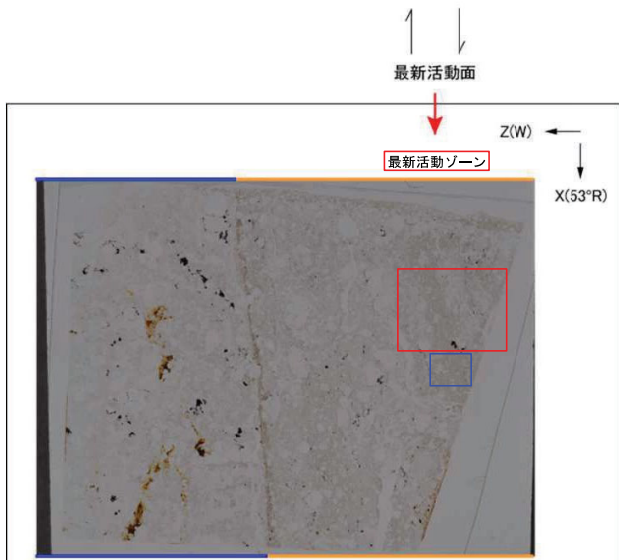
- ・H24-E-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度13.46m)の変位センスは、右ずれを伴う逆断層である。
- ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
- (断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- (断層ガウジ)丸みを帯びている岩片が多い。
- 岩片は少ない。
- (カタクレーサイト)岩片の粒界を横断する破断面が認められる。



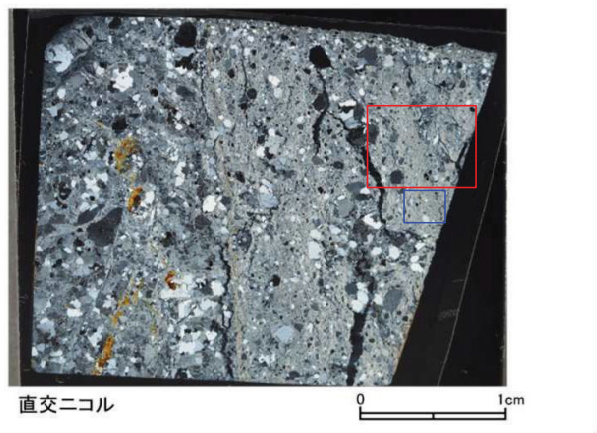
H24-E-2 深度13.23~15.82m K断層(2/3)

2のエビデンス (薄片観察結果) (2/3)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
 - 岩片は少ない。(図2)
 - 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)
 - 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図2)

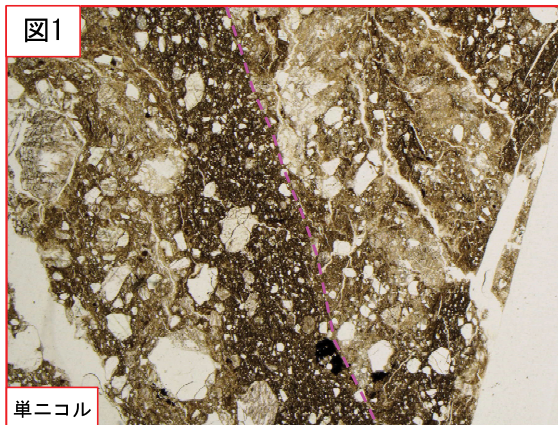


単ニコル



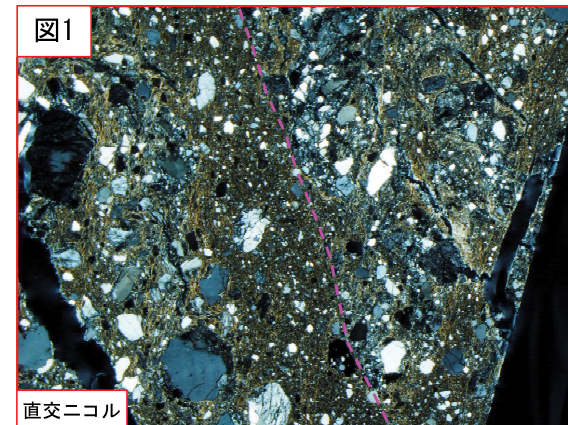
直交ニコル

- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト

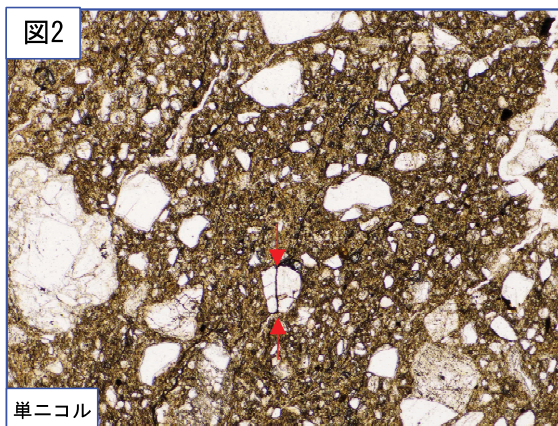


破線は帯状で直線的な範囲を示す。

1 mm

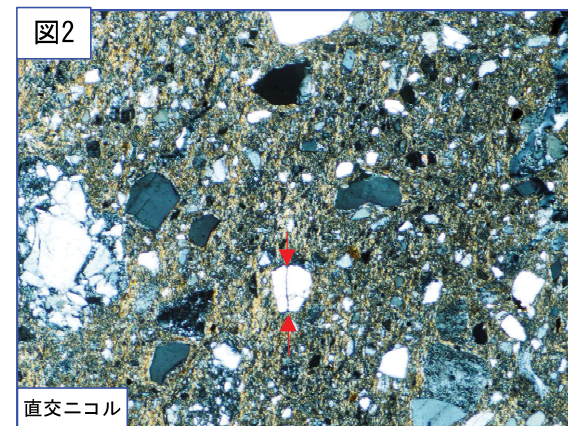


1 mm



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。

500 μm

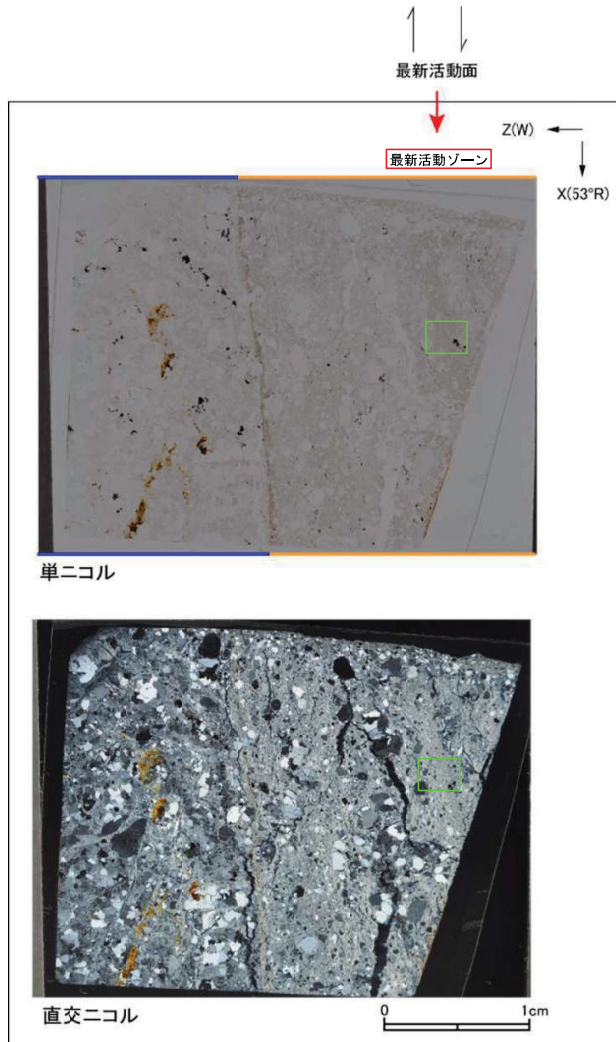


500 μm

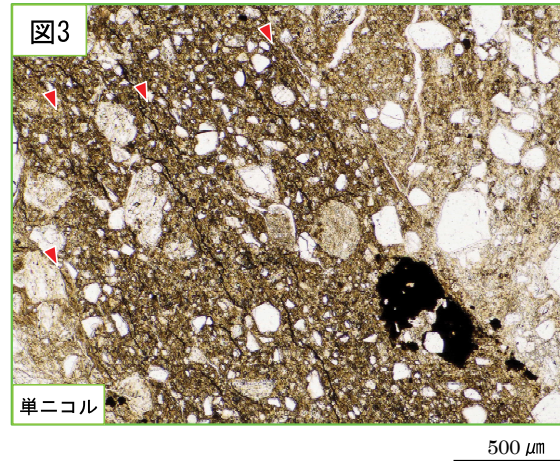
H24-E-2 深度13.23~15.82m K断層(3/3)

2のエビデンス (薄片観察結果) (3/3)

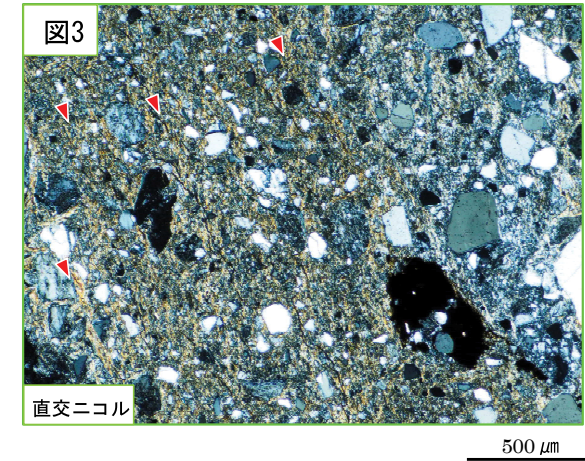
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図3)



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト



赤矢印の方向は粘土鉱物の配列方向を示す。

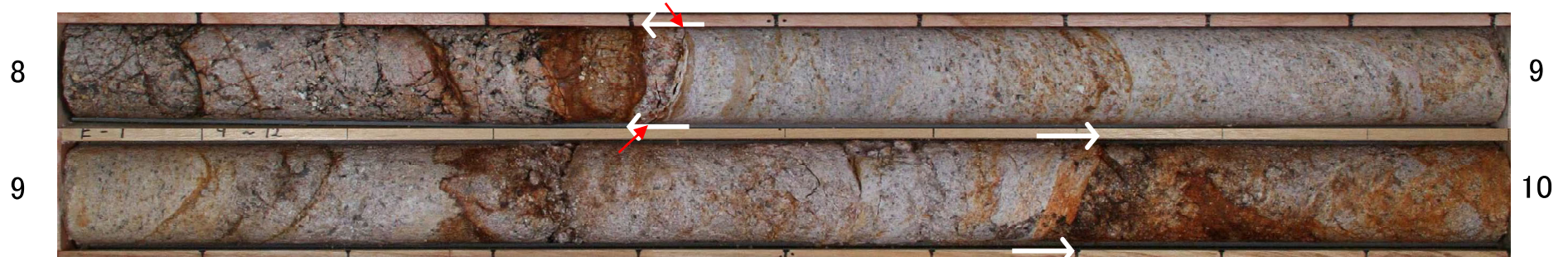


破砕幅算出資料 (K断層 H24-E-1 深度8.41~9.70m)

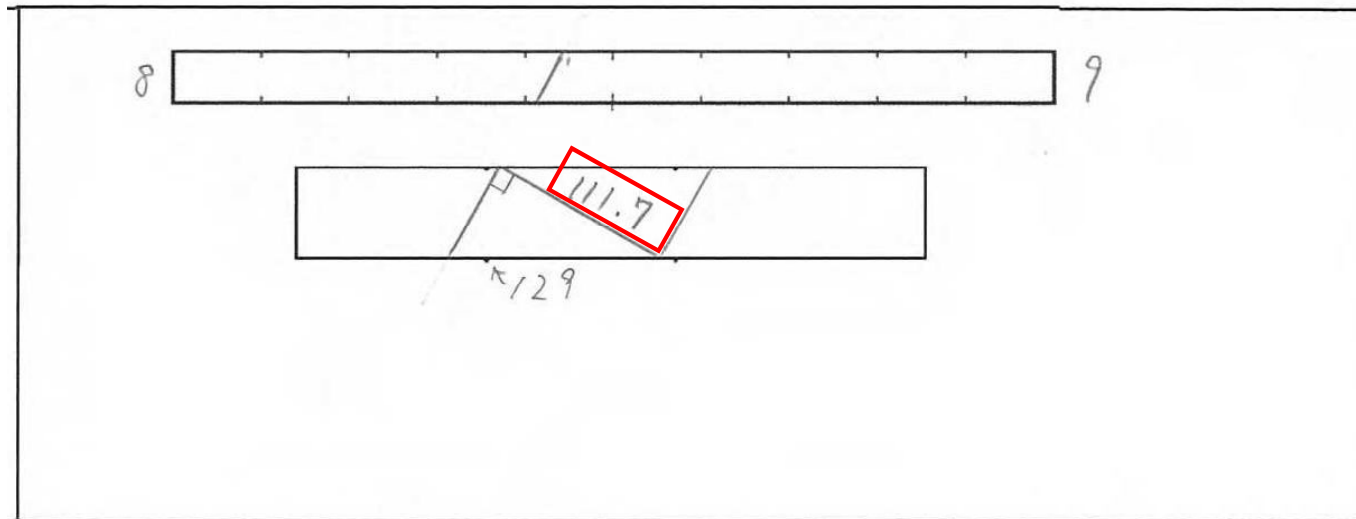
3のエビデンス (破砕幅)

- ・破砕部の区間長がコア径より長く、破砕幅を実測できないことから、図化した資料から算出した。
- ・算出した破砕幅は111.7cmである。

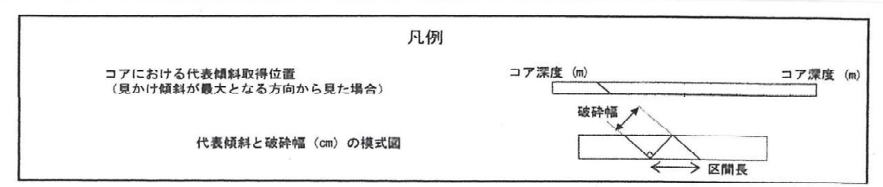
コア写真



凡例
 ← → 破砕部範囲※
 ※:写真上は白色で記載
 代表傾斜取得位置

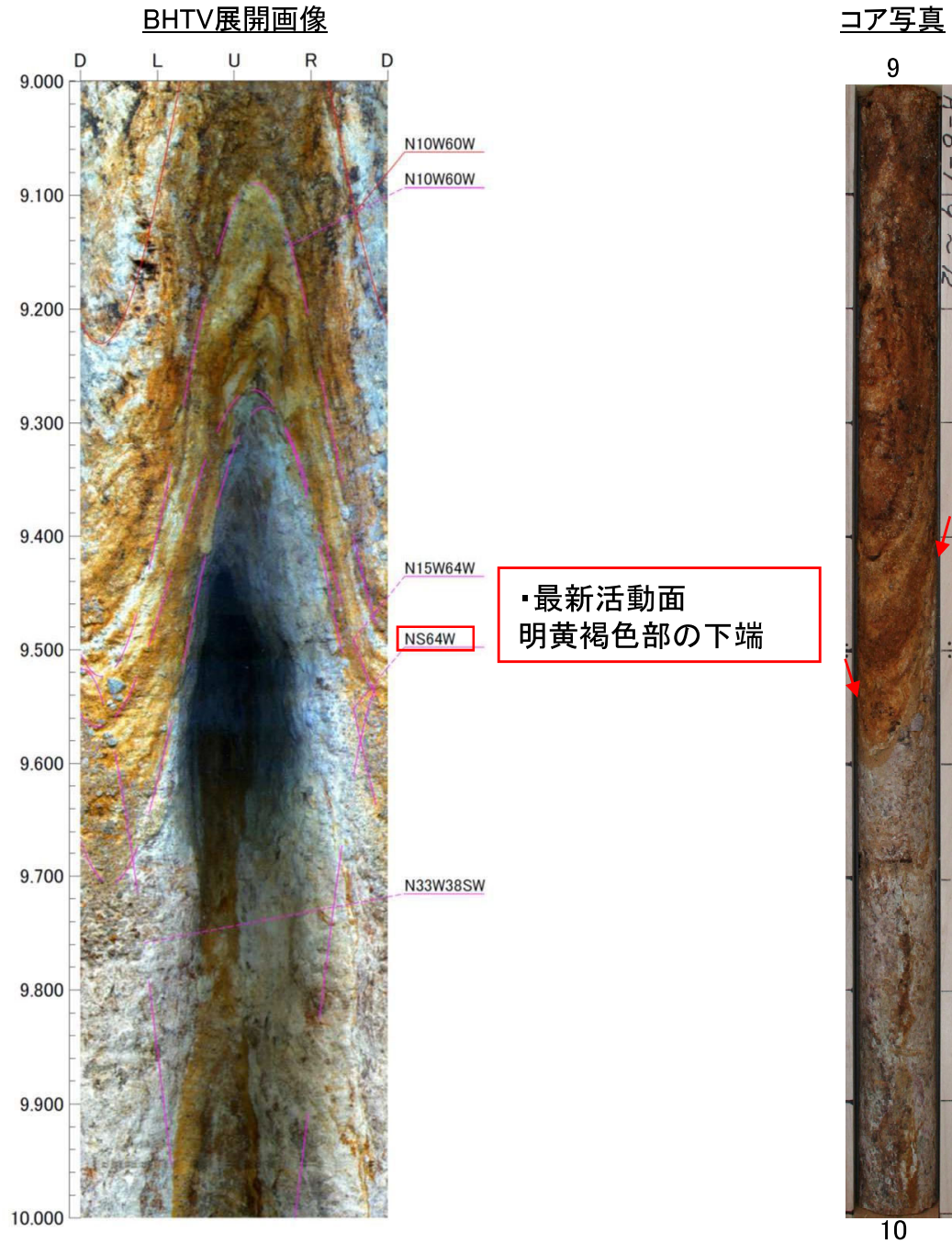


破砕幅算出図



ボアホールカメラ展開画像との対比結果 (H24-H-6-1 深度9.58~14.36m) 4のエビデンス (走向・傾斜)

・ H24-H-6-1 深度9.58~14.36mの破碎部の最新活動面の走向・傾斜はNS64° Wである。

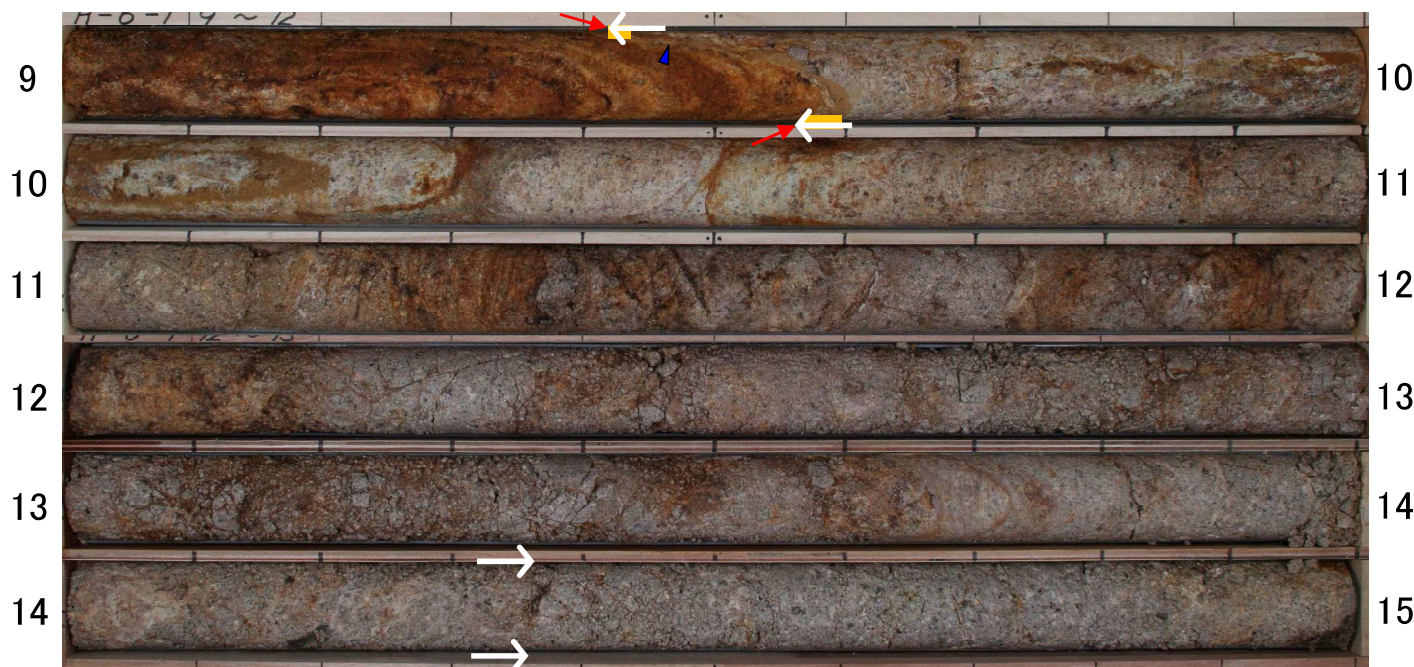


条線観察結果(K断層 H24-H-6-1孔 深度9.58m)

4のエビデンス (条線)

H24-H-6-1孔 深度9.58mのK断層の断層面の走向・傾斜はNS64° Wであり、61Rの条線が認められる。

コア写真



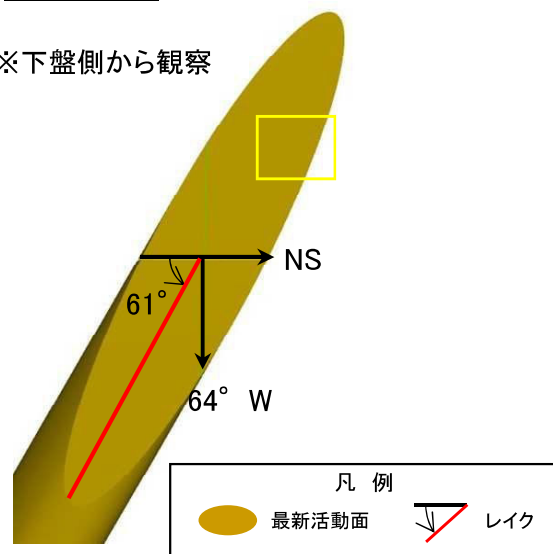
凡例

- 断層ガウジ
- 最新活動面
- 破碎部範囲*
- 条線観察位置

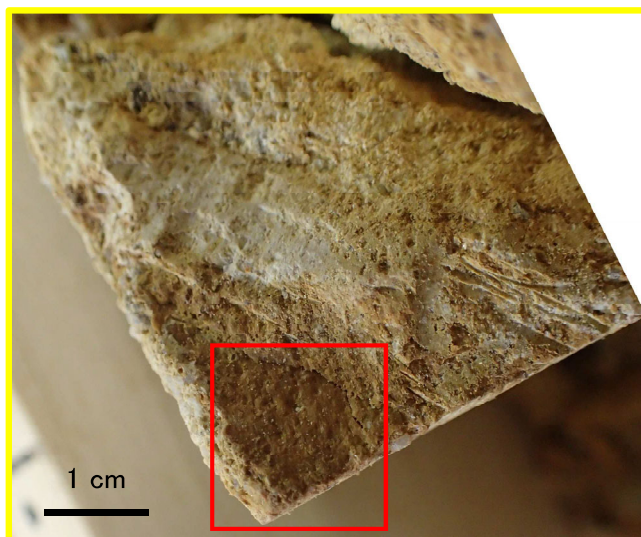
*: 写真上は白色で記載

観察模式図

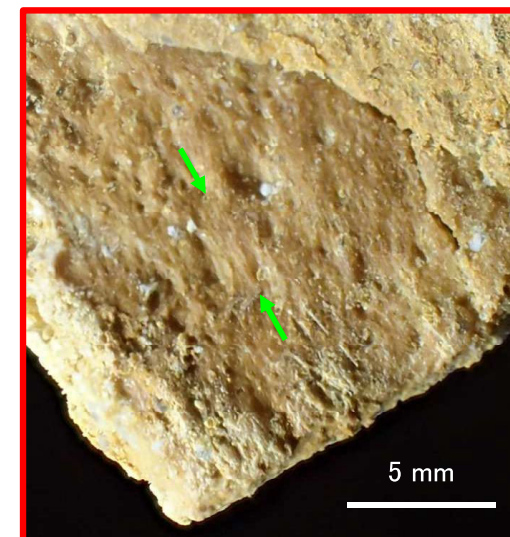
※下盤側から観察



条線観察位置拡大



赤枠内拡大



断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料(K断層 H24-H-14 深度4.93~7.81m) 5のエビデンス (ガウジ幅)

・実測した断層ガウジの幅は3.5cmである。

コア写真



凡例
断層ガウジ ← → 破碎部範囲※
※:写真上は白色で記載



青枠部拡大

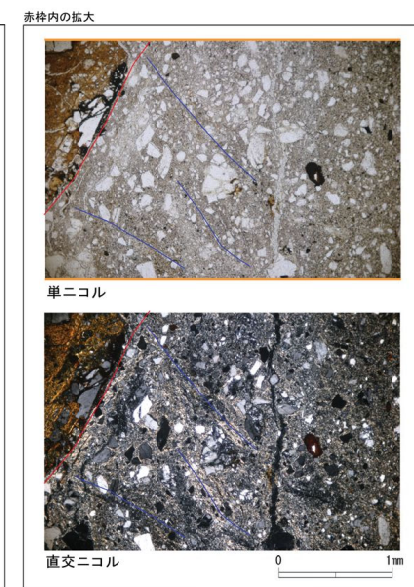
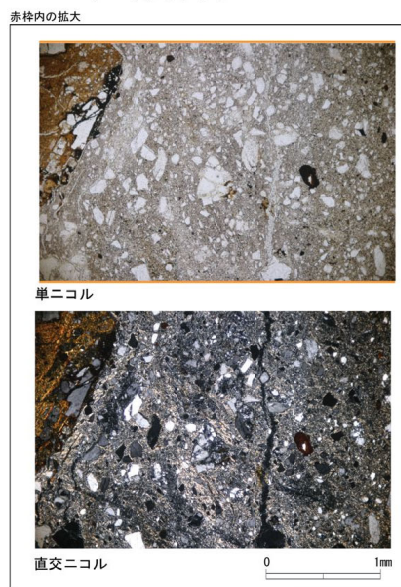
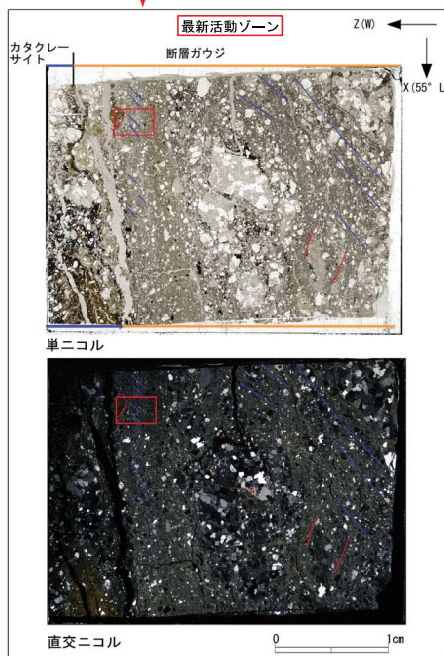
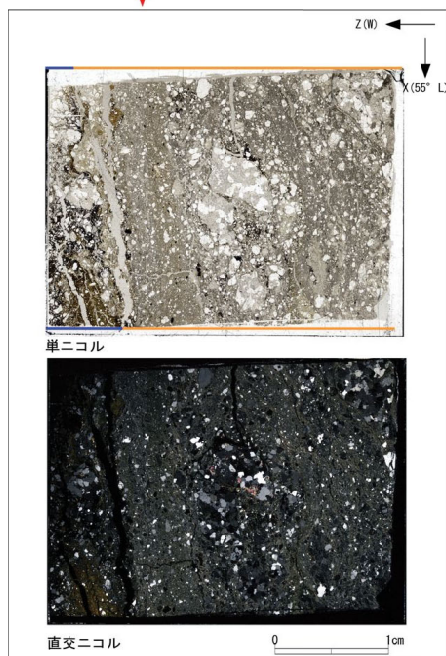
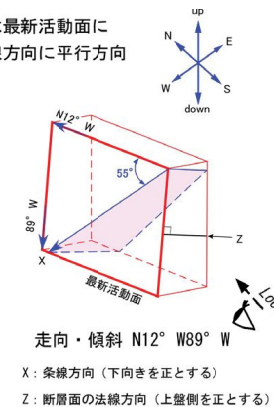
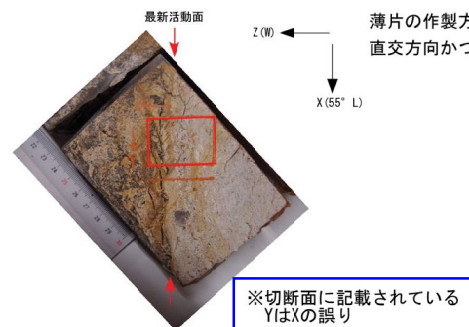
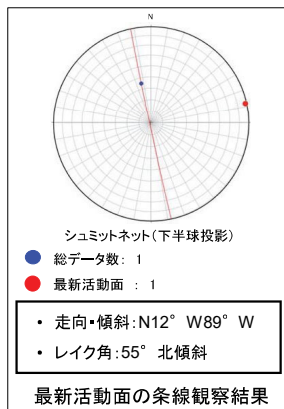
0 5 cm

H24-B'-1 深度7.50~10.93m K断層(1/2)

青枠：修正箇所

6のエビデンス (薄片観察結果) (1/2)

- ・H24-B'-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度7.91m)の変位センスは、左ずれを伴う逆断層である。
- ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
- (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ)丸みを帯びている岩片が多い。
- 岩片は少ない。
- (カタクレーサイト)岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

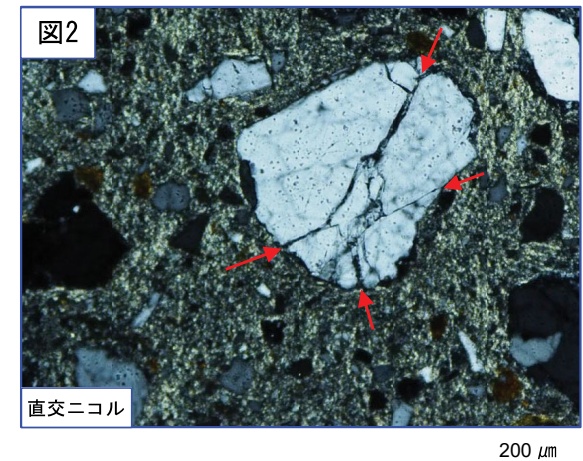
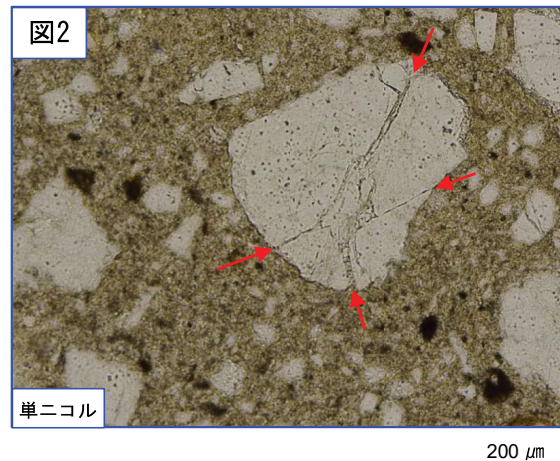
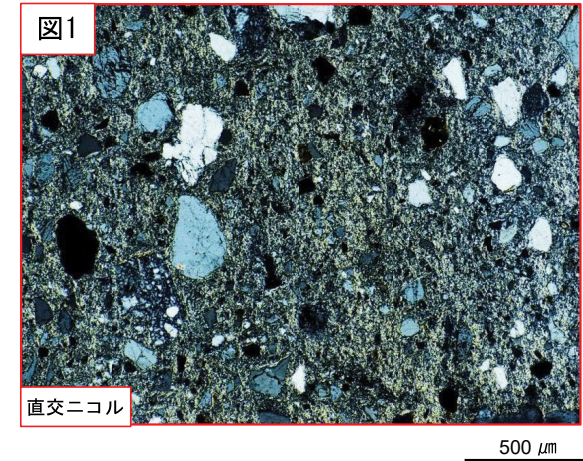
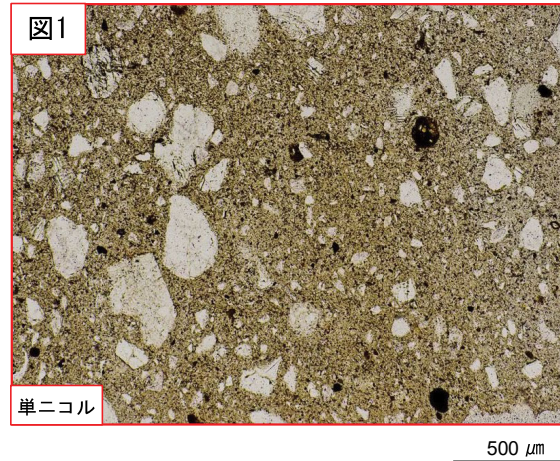
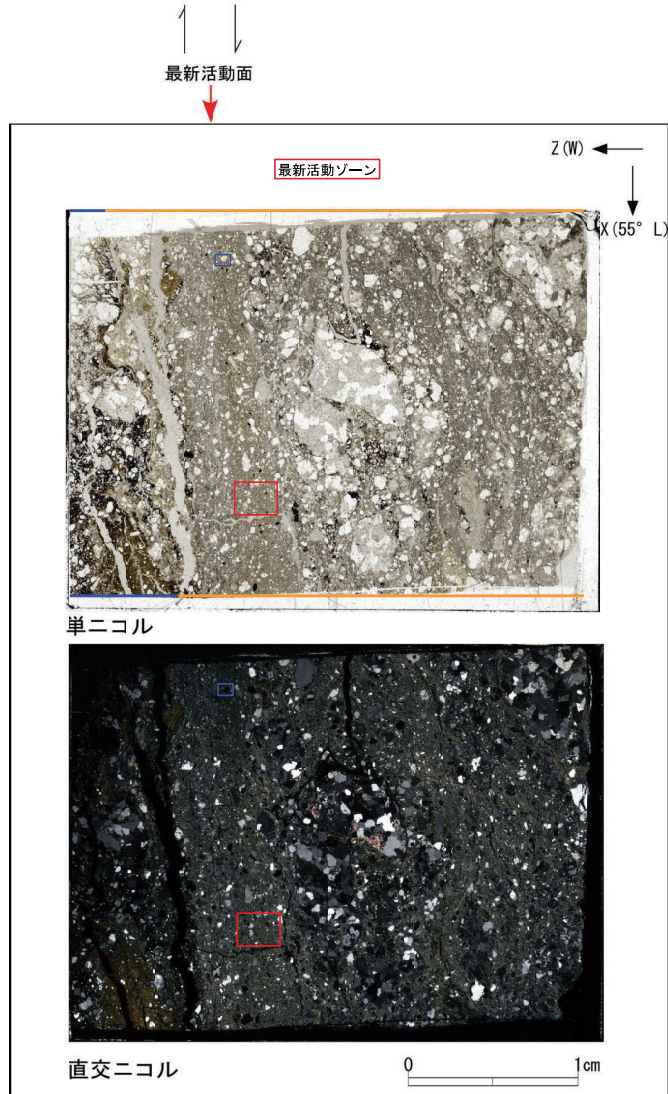


- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H24-B'-1 深度7.50~10.93m K断層(2/2)

6のエビデンス (薄片観察結果) (2/2)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1)
 - 岩片は少ない。(図1)
 - 丸みを帯びている岩片が多い。(図1)
 - 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図2)



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。

最新活動面認定根拠(H24-D1-1 深度49.20~49.91m)

7のエビデンス (最新活動面)

・細粒部を伴い最も直線的であることから、深度49.82mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真



凡例
← → 破碎部範囲※
※:写真上は白色で記載
最新活動面



青枠部拡大

0 5 cm

凡例
最新活動面

最新活動面認定根拠(H24-D1-1 深度53.77~54.54m)

8のエビデンス (最新活動面)

・細粒部を伴い最も直線的であることから、深度53.80mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真



凡例
← → 破碎部範囲※
※:写真上は白色で記載
↘ 最新活動面



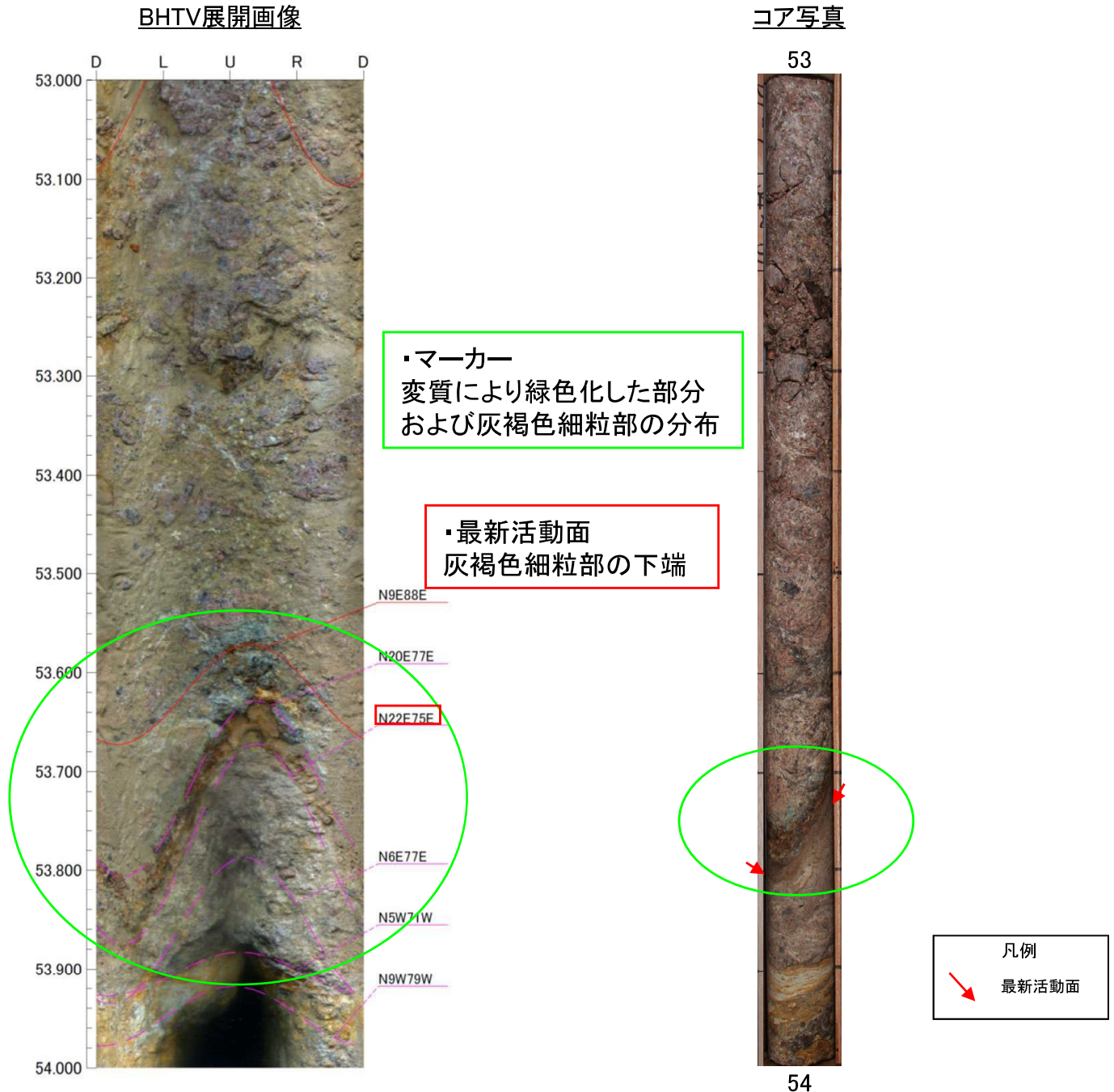
青枠部拡大

0 5 cm

凡例
↘ 最新活動面

ボアホールカメラ展開画像との対比結果 (H24-D1-1 深度53.77~54.54m) 8のエビデンス (走向・傾斜)

・ H24-D1-1 深度53.77~54.54mの破碎部の最新活動面の走向・傾斜はN22° E75° Eである。



断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料(H24-D1-1 深度53.77~54.54m) 8のエビデンス (ガウジ幅)

・実測した断層ガウジの幅は1.0cmである。

コア写真



凡例
断層ガウジ ← → 破碎部範囲※
※:写真上は白色で記載

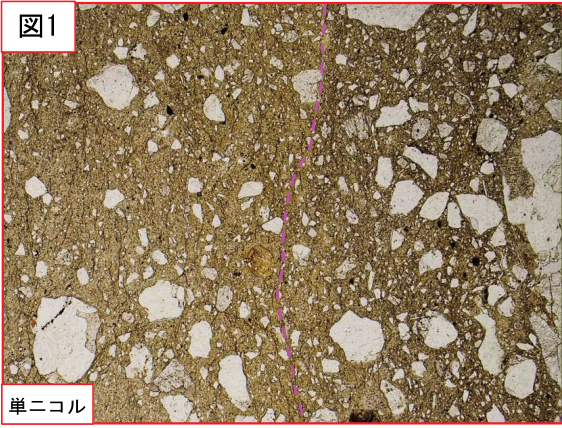
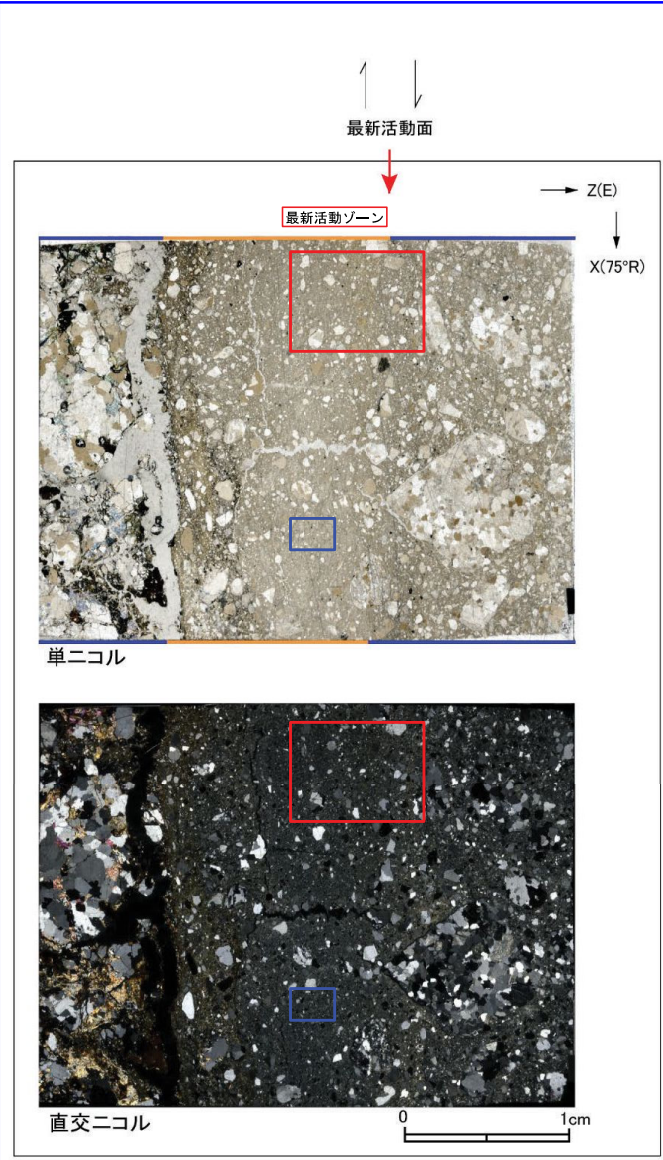


青枠部拡大

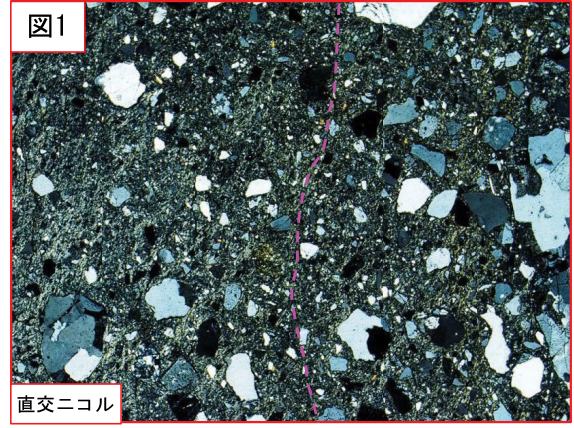
0 5 cm

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)

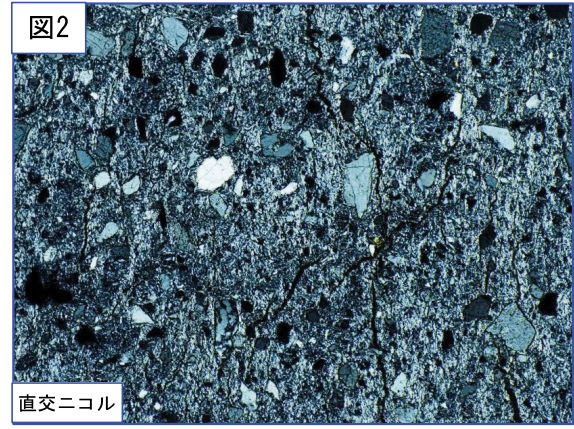
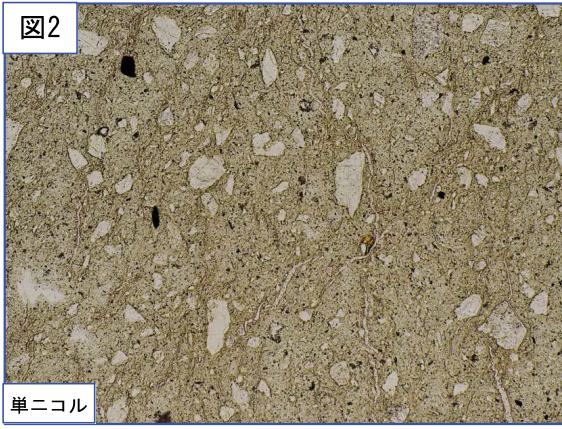
青粋：修正箇所



破線は帯状で直線的な範囲を示す。 1 mm



直交ニコル 1 mm




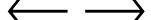

凡例
 断層ガウジ
 カタクレーサイト

明瞭なせん断構造・変形構造の有無(H24-D1-1 深度58.96~59.30m) ^{9のエビデンス}
 (明瞭なせん断構造・変形構造)

・最新活動面に沿った断層ガウジには灰赤色と灰白色の層状構造が認められることから、明瞭なせん断構造・変形構造は「有」とした。

コア写真



凡例
 断層ガウジ  破碎部範囲※  最新活動面
 ※:写真上は白色で記載



青枠部拡大



層状構造

凡例
 断層ガウジ

0 5 cm